

高等学 校

平成24年度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	22
VII	今後の課題	24

家庭部会	研究主題「生活課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、実践的な態度を育てる評価方法の工夫について」
-------------	--

I 研究主題設定の理由

新学習指導要領は、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学習意欲を高める教育を充実させることを求めている。

高等学校共通教科「家庭」における教科の目標は、「人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」とあり、共に支え合う社会の一員として主体的に生活を創造する実践的な態度の育成を重視している。

これらの目標を実現するためには、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を確実に定着させるため、学習内容が生徒一人一人に確実に身に付いているかどうか、生徒一人一人の学習の進捗状況や教科の目標の実現状況を把握するとともにその状況を授業改善に生かし、学習活動に応じた適切な評価を行うことが重要となる。

平成21年度文部科学省委託調査報告書「学習指導と学習評価に対する意識調査 報告書」では、高等学校の教科別に「授業や学習指導において心掛けていること」を比較すると、家庭科は他教科と比較して、「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」、「児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業」、「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」、「児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業」、「本時のねらいや目標を授業の導入部分などでしっかり明示する授業」を実施している割合が高い。一方で、「小テストやワークシートなどにより、定期考査などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業」、「繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業」、「習熟の程度やテーマなどによって分けられた小人数で行う授業」の実施については他教科に比べ少ないことが示されていた。このことから、言語活動の充実を図る授業や思考力・判断力・表現力を高める授業を充実させている一方で、学習で習得した知識を定着させるための振り返りや学習状況の評価を知らせるなどの授業については、十分に行われていないことがうかがえる。さらに、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 共通教科「家庭」）」（平成24年3月国立教育政策研究所教育課程研究センター）によれば、高等学校においては、全教科を通して「観点別評価」に対する取組の低さが指摘されるとともに、目標に準拠した学習評価に基づき、観点別学習状況の評価を行うことは、全ての生徒に確かな学力を身に付けさせ、生徒の学習意欲を向上させることにつながることを示されている。

以上のことから、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を高める学習活動を行い、学習活動に適した評価方法を用いて適切に評価することで、学習内容の確実な定着を図り、問

題解決能力を高めることができると考えた。そこで、「生活課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、実践的な態度を育てる評価方法の工夫について」を研究主題として授業実践に取り組むこととした。

Ⅱ 研究の視点

本年度の高等学校部会全体のテーマは「思考力・判断力・表現力を育成するための評価の工夫」である。新学習指導要領では、思考力・判断力・表現力を育成するための方策として言語活動の充実が挙げられており、第1章(4)、イ 思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実については、具体的な学習方法が以下のようにまとめられている。

- ①体験から感じ取ったことを表現する
- ②事実を正確に理解し伝達する
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④情報を分析・評価し、論述する
- ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

今回の研究は、授業の中で、上記に示された言語活動の充実を図る学習活動を取り入れ、どのような評価方法を用いて、どのような機会に評価すれば思考力・判断力・表現力を高めることができるのかを検証する。

家庭科は、講義の授業だけではなく、実験・実習等の学習活動から授業者が生徒の様子やワークシートを活用した評価など様々な評価活動を行っている。今回の研究では、国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校 共通教科「家庭」)」を参考に、毎時間4観点について評価するのではなく、授業の内容に合わせ、いずれかの観点到重点を置くなど、単元の評価規準や学習指導に即した評価規準を適切に設定することに重きを置くようにした。

評価については、授業時の観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、レポートなどの様々な評価方法を用いるとともに、学習活動に応じて生徒による自己評価と生徒同士による相互評価も活用する。これらの評価方法を用いて、適切な時期に評価することとした。

評価結果を授業改善に生かすため、生徒の学習状況に応じて、「十分満足できる(評価A)」、「おおむね満足できる(評価B)」、「努力を要する(評価C)」を設定し、評価することとした。

Ⅲ 研究の仮説

生徒が、家庭科で習得した知識と技術を自己の生活に生かし、実生活における生活課題の改善に向けて実践していく態度を育成するためには、生徒の学習意欲を向上させ、教師が、適切な時期にその学習活動に応じた評価を行い、評価結果を把握する必要があると捉えた。また、思考力・判断力・表現力を高める学習活動を工夫して行うとともに、生徒に自己評価や相互評価をさせ、その結果を教師が授業に生かしていくことも重要であると考えた。以下に本研究の仮説を示す。

- 1 自己評価や相互評価を効果的に取り入れることで、生活に必要な知識と技術の習得と定着を図り、課題解決に向けた思考力・判断力・表現力を高めることができる。

- 2 話し合いなどを通して意見をまとめて発表したり、ワークシートを活用して自己の考えをまとめたりすることで思考力・判断力・表現力を高め、教師が学習活動に応じて適切に評価することで、生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を身に付けることができる。

IV 研究の方法

今回の研究は、『食生活分野』で実施した。食生活の学習の中でも、単元の学習の導入時期と学習のまとめの時期では、学習内容の密度も生徒が習得した知識・技術の量も異なる。そこで、単元の学習の時期に応じた思考力・判断力・表現力を高めるための学習活動を行い、学習活動に応じた評価方法を用いて評価することで、思考力・判断力・表現力を育成することができたかどうか検証授業を行った。

1 単元の学習の導入時期における自己評価を生かすためのワークシートの工夫

生徒の興味・関心を高め、現代の食生活の課題について考え自己の食生活に生かすために、単元の導入時期にグループによる話し合い学習と発表学習を取り入れた。自己の食生活を振り返り、食事の意義や役割、食生活が及ぼす健康被害について学習し、現代の生活の課題として「コ食」を取り上げた。「コ食」の原因について考え、改善策をグループで話し合い、発表することで、思考力・判断力・表現力を高め、自分や家族のより良い食生活について考えを深めさせた。自己の考えを相手に伝え、意見交換が活発になるように、話し合いを行う前に、教師の発問に対して生徒が答える場面を設け、教師は生徒が考えている過程を評価し、適切な助言を与え、学習意欲を引き出すようにした。

本時のまとめで自己評価を行い、ワークシートに授業に対する取組と学習内容を振り返る設問を設定し、生徒の記述内容から学習内容の理解度を把握することにした。

2 単元の途中に実験を行い、実験結果から思考を深め学習意欲を高める事後学習の工夫

調理法によるビタミンCの含有量の変化について、科学的に理解させるため食品におけるビタミンCの測定実験を行った。実験の試料として使用する食品の中で、ビタミンCが多く含まれている食品は何かあらかじめ予想を立てさせ、グループごとに試料作りを行い、調理法によるビタミンCの含有量の変化について考えさせた。

授業終了後、食品成分表を活用しビタミンCの性質についてまとめる課題を提示し、課題をワークシートにまとめていく過程で、思考力・判断力・表現力を高め、ビタミンCに関する知識の定着を図った。自己評価を行い、生徒の記述内容から学習に取り組む姿勢と授業の理解度について把握した。

3 単元のまとめに、食生活の分析を行い、習得した知識の定着を図る学習活動の工夫

単元のまとめの時期に、事前課題として3日間食べたものを記録する課題に取り組みさせた。3日間の食事記録について、生徒同士でペアとなり、お互いの食事の内容について分析し合った。相手の食事内容を分析する際に、学習してきた知識を活用し、良い点、改善すべき点等を自分で判断し相手に伝えることを通して、思考力・判断力・表現力を高め、スポーツ選手として望ましい食生活について考えさせた。他者から自己の食生活について分析を受けることで自分自身では気付かなかった食生活の傾向を知り、さらに他者の食生活の良い点を参考に、自己の食生活を改善していく意識を向上させた。

4 単元のまとめに、発表学習を行い、相互評価を基に自己の課題を見いだす学習活動の工夫

料理様式や食卓作法を理解させ、食事の社会的役割について考えさせる授業を行った。単元のまとめに、自分で設定したテーマに基づいた献立を立案し、その献立に合ったテーブルコーディネートを考えさせ、発表学習を行った。テーマに基づいた食卓を演出する取組を通して、思考力・判断力・表現力を高め、家庭生活において食事の目的に応じた食卓を演出できるようにした。

自己評価の他に、生徒による相互評価を行い、他者からの意見や感想を把握することで自身では気付かなかった視点に気づき、家庭における食生活に生かすようにした。

V 研究の内容

全体テーマ **新学習指導要領に対応した授業の在り方について**

高校部会テーマ **思考力・判断力・表現力を育成するための評価の工夫**

教科における思考力・判断力・表現力とは

- 思考力** 自立への基礎・基本的な知識・技術を習得・活用し、家庭生活や地域社会を主体的に創造しようとする力
- 判断力** 家庭生活や地域社会における課題を見だし、課題解決に向けて必要な情報を取捨選択し、解決する力
- 表現力** 自らの考えを様々な人々と関わりコミュニケーションを深める中で、適切に伝達したり、論述、発表する力

現状と課題

現状 核家族化が進み、地域社会との関わりが低下する中、日常生活における実践的、体験的経験が乏しいことや情報機器の低年齢からの普及などから、人や社会と主体的に関わろうとする意識が低く、主体的に物事を考え、生活を創造しようとする力に欠けている。

課題 家庭や地域との関わりの中で課題を見だし、解決のための方策を考えることを楽しみ、解決に向けて実行する力を育成する授業、生徒相互が認め合い協力して、自己を表現する機会を多く取り入れた授業を展開することが課題である。

家庭部会主題

生活課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、実践的な態度を育てる評価方法の工夫について

仮 説

- 自己評価や相互評価を効果的に取り入れることで、生活に必要な知識と技術の習得及び定着を図り、課題解決に向けた思考力・判断力・表現力を高めることができる。
- 話し合いなどを通して意見をまとめて発表したり、ワークシートを活用して自己の考えをまとめたりすることで思考力・判断力・表現力を高め、教師が適切に評価することで、生活をよりよくしていこうとする実践的な力を身に付けることができる。

具体的方策

- 自己評価や相互評価を取り入れ、学習内容を振り返らせ、学習した知識と技術の定着を図る。また、グループ学習や発表学習などを行い、思考力・判断力・表現力を高める。
- 多様な学習活動と適切な評価方法を通して、思考力・判断力・表現力を育成させ、課題解決できる力を身に付けさせる。
- 評価結果を適切にフィードバックし、生徒が課題を見だし、解決しようとする姿勢を習慣化させる。

検証・評価

- グループ学習や発表学習を行った際のワークシート、事前課題や事後課題における記述内容、自己評価や相互評価の内容から、生活課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、実践的な態度を育成することができたか検証する。

実践事例 1

科目名	家庭総合	学年	2 学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名：第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる
 1 人と食物のかかわり 2 私たちの食生活を見つめる
 イ 教科書：実習出版 新家庭総合 ～未来をひらく生き方とパートナーシップ～
 ウ 副教材：実教出版 生活学N a v i

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 自分自身の食生活や食文化について関心をもち、自分や家族の食生活について改善・向上に努めようとする。
- ・ 食事の意義や役割について、食文化や食生活を取りまく環境から理解する。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技術	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	栄養・食品・調理などについて関心をもち、意欲的に授業に取り組んでいる。	自らの食生活を振り返り、課題に気づき、健康や安全に配慮した食生活を考えている。	調理実習を通して調理に関する必要な技術を習得している。	栄養・食品・調理に関する基礎的な事柄について理解している。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（32時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次	1 人と食物のかかわり ・世界の食文化と日本に食文化について理解する。(1時間) ・VTR「食文化 穀物」を視聴し理解する。(1時間) ・私たちの食生活を振り返り、現代が抱える問題点を知る。(1時間)【本時】 ・VTR「好きなものだけ食べたい」を視聴し食の問題点について考える。(1時間)	●	●			・食について興味関心をもち、食生活の自己診断を通して自己の食生活を振り返る。(観察) ・国内外の食文化について興味をもち、日本の食の変遷について知る。(ワークシート)(発表) ・「食育」と様々な「コ食」について考え、まとめて発表している(観察)(ワークシート)
第二次	2 栄養と食品のかかわり ・栄養素とその働きについて理解する。(1時間) ・炭水化物の働きと、多く含まれている食品を知る。(1時間)		●		●	・栄養素の働きを知る。(ワークシート) ・でんぷんのアルファ化とベータ化について理解している。(ワークシート)

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第二次	<ul style="list-style-type: none"> ・脂質の働きと、多く含まれている食品を知る。(1時間) ・たんぱく質の働きと多く含まれている食品を知る。グルテンの形成を体験する。(1時間) ・無機質、ビタミンの働きと多く含まれている食品を知る。(1時間) ・その他の食品、嗜好品、調味料などについて知る。(1時間) ・VTR「ほねほねなぜなぜ」を視聴し、カルシウムについて理解する。(1時間) ・ビタミンの働きとその食品を知る。(1時間) 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・脂質の量を資料集で調べ、まとめる。(観察)(ワークシート) ・たんぱく質及びグルテンの形成について理解している。(観察)(ワークシート) ・ビタミンについて特徴と欠乏症について理解している。(ワークシート) ・日頃、口にしている嗜好品、調味料について理解している。(ワークシート) ・カルシウムについて理解を深め、学んだことをまとめて表現している。(ワークシート)
第三次	<p>3 食品の選び方と安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の表示について見方を理解する。(1時間) ・身近な食中毒や食品添加物の種類を知る。(1時間) ・VTR「食中毒」を視聴し食中毒について理解する。(1時間) ・VTR「食品添加物」を視聴し、食品添加物の種類を理解する。(1時間) 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選び方で意識していることをまとめ表現している。(観察)(ワークシート) ・表示の見方を理解し、新鮮な食品の選択ができる。(ワークシート) ・食中毒のVTRを視聴し、食中毒の予防について理解し、生活に生かそうとしている。(ワークシート)
第四次	<p>4 食生活をデザインする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の作法について理解する。(1時間) ・食品の摂取量を知り、自分や家族の献立を考える。(2時間) ・調理実習を通して、基本的な調理技術を習得する。(10時間) 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・日本料理、西洋料理、中華料理について興味をもち配膳を理解し表現している。(ワークシート) ・「食品群別摂取量」「食事摂取規準」の意味を知り、自分の食生活に取り入れ、献立を作成している。(観察)(ワークシート) ・調理実習を通して、調理方法を理解し、基本的な調理技術を身に付けようとしている。(観察)(ワークシート)
第五次	<p>5 これからの食生活を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率の現状を理解し、輸入品の安全性などの食糧問題について考える。(1時間) ・VTR「食料自給率」を視聴し、食料事情について理解する。(1時間) ・食に関わる環境問題を知り、家庭で実践できることを考える。(1時間) 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧事情について関心をもち、日本と世界の現状について理解し、表現しようとしている。(ワークシート) ・食に関する環境問題を理解し、自分の考えをまとめ、食生活に生かそうとしている。(ワークシート)

(5) 本時（全32時間中の3時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 健康被害が起こる原因を知るとともに、自己の食生活を振り返ることで、これからの食生活の大切さについて理解する。
- (イ) 我が国の食生活の変遷、諸外国の食育の取組などを理解し、食に関する諸問題の原因について考える。
- (ウ) グループで協力して「コ食」の原因や改善案などをまとめ、発表することができる。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動を伝える。 ・食に関するニュースなどに触れ、興味関心をもたせる。プリントを配布する。 	
展開	35分	<p>「1 私たちの食生活」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「食生活診断」を行う。 ・補足説明を聞く。 <p>発問①</p> <p>食生活の乱れによって、身体にどのような影響があるか、ワークシートに記入して発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活診断に取り組むよう指示する。 ・補足説明結果について手を挙げさせる。良いところを褒め、改善するところを助言する。 <p>発問①</p> <p>Aさん、Bさん、Cさんの食生活では、健康にどのような影響があるか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活の乱れのシュミレーションを黒板に掲示する。生徒の発言を黒板に記入する。動脈硬化・糖尿病・骨粗鬆症について説明する。 	<p>ア、イ 〔発言、プリント〕</p> <p>ア、イ 〔発言・プリント〕</p>
		<p>「2 食生活の変化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食生活の変遷」を知る。 ・「海外の食育」を知る。 <p>発問②</p> <p>食育を学ぶ意味を知る。</p> <p>「3 食事におけるコミュニケーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事中、どんな会話をしているか、どんな話題がふさわしいのか、ワークシートに記入する。 ・資料集「様々なコ食」を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読みながら補足説明する。 ・興味関心のあるCMなどを例に取り入れて説明する。 ・ワークシートの空欄に言葉を入れるよう指示し、板書する。 ・資料集の諸外国の食育について板書、説明をする。 <p>発問②</p> <p>『食育』という言葉が出てきた背景と、どうして今学ぶ必要があるのか、考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントに記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・食事中どんな話をしているかどんな話題がふさわしいのか、ワークシートに記入するように促す。 ・資料集の「様々なコ食」について説明する。 	<p>ア、イ、エ 〔発言・プリント〕</p> <p>ア、イ 〔観察・発言・プリント〕</p>

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
展開		グループ作業 「コ食」の原因、影響、改善案について話し合い、カードを作成する。	・「コ食」について原因、影響、改善案をグループで考え、画用紙に書くよう伝える。 ・係を決める。「司会」、「発表」、「カードを持つ人」、「記録」の係を決めさせてから取り組ませる。 ・作業中は机間指導する。	ア〔観察〕
		発表 黒板に掲示し、代表生徒が発表する。 ・板書を自分のプリントに写す。	・発表方法はグループで教卓に立ち、2分間で画用紙をめくってCMのように、短く、わかりやすく説明することを伝える。発表の仕方を工夫させる。 ・カードを黒板に貼らせる。講評と助言を行う。 ・生徒に板書を写すよう指示する。	
まとめ	10分	・本時で学んだ用語について意味を確認する。 ・「今日の授業の自己評価」を記入する。 ・次回の連絡を聞く ・プリントを提出する。	・プリントの順を追って、習った用語を読み上げ、確実に理解させるようにする。(食育・コ食) ・自己評価と授業のまとめを記入しているか、机間指導し記入させる。 ・次回、調理実習では忘れ物をしないことを伝える。 ・提出するプリントを確認させる。	エ イ〔プリント〕

(6) 本時の振り返り

ア 教師の発問に対する生徒の発言を生かしながら、食生活と健康被害、食事の意義や役割について理解を深めさせ、「コ食」についてグループ学習と発表学習に取り組んだ。発表学習に慣れていない生徒ではあったが、他者の意見や考えを聞き、お互いのコミュニケーションを深めながら改善策についてまとめ、発表することができた。

イ 授業の振り返りについては、年度当初からプリントの最後に自己評価(表1)を記入させていた。本授業では、表1を改善し、学習に対する取組と学習目標の到達度を把握するために、設問を工夫した(表2)。また、従来から、授業の振り返りの他に、学習を通して学んだことなどを短い文章にまとめさせてきたため、今回も表2に示した設問のほか、「今日の授業を通して、将来どのような食生活を送っていくか」について、考えまとめさせることとした。「コ食」について記入する生徒が多かったことから、グループ学習や発表学習を通して、「コ食」について印象に残った生徒が多いと言える。以下に生徒の感想を示す。

- ・食生活を見直そうと思った。健康的に過ごそうと思った。食事を作るのを手伝おうと思うし、将来のことを思うと健康かどうか心配になった。(女子)
- ・家族も含めて食生活を一から見直すことが大切だと思います。それを踏まえて、できるだけ手作りにする。摂取する食品に偏りを出さない。きちんと寝る。そういう風に改善していくことで長生きにつながると思いました。(男子)
- ・将来、家族ができれば食事はみんなで食べ、できるだけ家族で一緒のものを食べたら個食など改善できると思いました。(男子)

ウ 本時の評価は、以下の評価規準に基づいて行った。授業の振り返りと自己の食生活をどのように改善していくのか、具体的な記述内容から、生徒の学習内容の理解と学

習目標の達成度を把握した。ワークシートの記述内容からほとんどの生徒が食生活について自分なりに考えを深めていることが分かった。

評価A：「十分満足できる」状況と判断できるもの
・ワークシートに必要事項を記入し、質問に対して指示された行を活用し、将来の食生活について自分で考え適切に答えている。
評価B：「おおむね満足できる」状況と判断できるもの
・ワークシートに必要事項を記入し、質問に対して指示された行を活用し、答えている。
評価C：「努力を要する」状況と判断できるもの
・ワークシートの記入欄に空欄がある。質問に対して指示された行を活用して答えていない。

(7) 成果と課題

ア 発表学習を踏まえた授業計画と指導の在り方

授業を展開するに当たり、生徒の発言を生かして、学習意欲を引き出し、人前で「話す」ことに慣れさせるようにした。自分の考えを発表することが苦手な生徒たちでも、グループで話し合い、意見をまとめる過程で言葉を整理し、簡潔に発表することができた。グループ学習と発表学習を行い、食事の重要性について認識を深め、自己の食生活の改善策を考えることを通して、思考力・判断力・表現力を高めたと考える。しかし、話し合いや発表に慣れていない生徒が多いため、役割分担などに時間がかかり、発表方法もグループによって異なるなど課題も多かった。

グループ学習に慣れていない生徒の場合には、教師が、話し合いや発表の方法について丁寧に説明し、視覚的に分かりやすく提示することが必要である。また、予定している授業計画よりも時間がかかることを念頭に置き、余裕をもって授業計画を立案することが大切である。初めは上手くいかないこともあるが、教師が適切に支援することで、生徒もグループ学習や発表学習に慣れてくることが分かった。

イ 自己評価を生かすためのワークシートの工夫

生徒が適切に自己評価に取り組めるように、ワークシートに自己評価の欄を設け学習指導内容にあった設問を設定するようにした。教師の評価を生かすために、生徒が自己評価に適切に回答できるよう設問内容について十分に検討する必要がある。

従来の自己評価は、できたか、できなかったかを問うもので、生徒の理解度を図ることは難しい。
(A：できた B：少しできた C：あまりできなかった D：できなかった)

習った言葉を理解できたか。	A・B・C・D
自分の生活に置き換えて考えることができたか。	A・B・C・D
積極的に調べる課題に取り組むことができ、理解できたか。	A・B・C・D

表1 従来の自己評価に関する設問

今日学んだ言葉の中で印象に残っている言葉を書きましょう。理由も書きましょう。

言葉	理由
----	----

今日学んだことを自分の生活に置き換えて考えることができたか？理由も書いてみよう。

・考えられた ・少しは考えた ・なんとなく考えた ・考えられない 理由 ()

自分の考えを班員に伝えたり、プリントにまとめることができたか。

・できた ・少しできた ・あまりできなかった ・まったくできなかった

グループ活動では、積極的に自分の役割に取り組めたか。(担当係)

・できた ・少しできた ・あまりできなかった ・まったくできなかった

*記述させる項目を増やし、記述内容から授業の取り組みや理解度を把握する。

表2 本時における自己評価に関する設問

実践事例 2

科目名	家庭総合	学年	1 学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 1 生活を見つめなおす 第2章 「食べる」
 イ 教科書 「家庭総合 出会う・かかわる・行動する」教育図書
 ウ 副教材 最新「家庭科トータルデータ ver2.1」教育図書

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ ライフステージの食生活の特徴について理解し、生涯を見通した食生活の管理ができる。
- ・ 栄養、食品、調理及び安全管理などについて科学的に理解する。
- ・ 食生活の文化的な側面に関心をもち、調理実習を通して食生活の自立に必要な知識と技術を習得する。
- ・ 食生活に関わる情報を適切に判断し、環境に配慮した食生活を主体的に営む力を身に付ける。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	①栄養素の働きや食品の特徴及び食生活の科学について関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。 ②安全と環境に配慮した食生活を送るために、食生活全般を自分のこととして捉え、食品衛生や栄養に関心をもち取り組んでいる。	①栄養、食品、調理及び食品衛生などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	①主体的に食生活を営むために必要な、食に関する適切な情報を収集・整理することができる。 ②充実した食生活を送るため、調理に関する基礎的・基本的な調理技術を身に付けている。	①栄養、食品、調理などについて科学的に理解し、安全と環境に配慮した食生活を営むために必要な知識を身に付けている。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（35時間扱い）

時 間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第 一 次	<ul style="list-style-type: none"> ・ VTR「知っていますか子供たちの食卓」を視聴し、自分の食生活を振り返る。(1時間) ・ 現代の食生活の問題点について自分の考えをまとめる。(1時間) 	●	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活を自分のこととして捉え、課題を見いだしている。(ワークシート) ・ 様々な「コ食」や世界の食料事情などを理解し、自分の食生活の問題点を文章で表現している。(ワークシート)

時間	学習内容	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次	<ul style="list-style-type: none"> サプリメントや栄養補助食品について、インターネットや新聞記事を読み、このような食品が流通している背景について考える。(1時間) 		●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する適切な情報を収集・整理することができる。(ワークシート)
第二次	<ul style="list-style-type: none"> 5大栄養素の名称と役割、水の役割を知る。(2時間) 炭水化物が多く含まれる食品について知る。(2時間) たんぱく質の多い食品について知る。(2時間) 薄力粉と強力粉から、炭水化物とたんぱく質を取り出し、それぞれの粉の違いとたんぱく質の関係について理解する。(2時間) 脂質の多い食品について知る。(2時間) マヨネーズ作りから、脂質の多い食品についての理解を深める。乳化の役割について知る。(2時間) 無機質の多い食品について知る。(2時間) 様々な食品のビタミンC量を測定し、ビタミンCの性質について考え、ワークシートにまとめる。(2時間)【本時】 ビタミンの多い食品について知る。(2時間) 	●			●	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の働きと食品の特徴について理解し、関心、意欲をもって学習に取り組んでいる。(観察) 健康的な食生活を営むために栄養素や食品の知識を理解し、日常生活に生かそうとしている。(ワークシート) 小麦粉それぞれのたんぱく質の含有量の違いや用途の違いを理解している。(ワークシート)(観察) 健康的な食生活を営むために、栄養素や食品の知識を理解し、日常生活に生かそうとしている。 実験から身近な食品がどのように作られているのか科学的に理解し、健康な食生活を営むための方策について考え表現できる。(ワークシート) 健康的な食生活を営むために、栄養素や食品の知識を理解し、日常生活に生かそうとしている。(ワークシート) 身近な食べ物に含まれるビタミンC量を知る。ビタミンCの調理特性を理解し、日常の食事にどのように取り入れることができるか、考えることができる。(ワークシート) 健康的な食生活を営むために、栄養素や食品の知識を理解し、日常生活に生かそうとしている。(ワークシート)
第三次	<ul style="list-style-type: none"> 1日に必要な栄養量を知り、献立を立てる。(2時間) 食中毒や食品添加物など食の安全について理解する。(2時間) 調理実習を行い、日常の食事を整えるために必要な基礎的・基本的な技術を身に付ける。(6時間) 	●	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 食品群別摂取量や食事摂取基準を理解し、献立を立てている。(ワークシート) 安全な食生活を営むことの重要性について理解している。(観察)(ワークシート) 実習を通して、食生活に関心をもちながら調理技術を身に付けている。(観察)(ワークシート)

時間	学習内容	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第三次	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食文化について知り、他国の食文化と比較する。(2時間) 食糧自給率やフードマイレージなど食品と関わり深い内容について理解する。 	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の食文化を知り、自分の食生活についての興味・関心を深めている。世界の食文化との違いについて調べ、表現している。(ワークシート)(観察) 日本を取り巻く様々な食糧事情を理解し、今後自分の食生活をどのように営んでいくか考えをまとめている。(ワークシート)

(5) 本時 (全35時間中の20時間目)

ア 本時の目標

- (ア) 実験を通してビタミンCが身近な食べ物にどれ位含まれているかを知る。
- (イ) ビタミンCの性質について考えることができる。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習活動と目的を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の目的を板書する。 本時の授業が試料作り→測定→まとめという流れになっていること、六つの試料を6班で作ることを説明する。 実験の試料の中でビタミンが多いものを予想させ、ワークシートに書かせる。 	
展開	40分	<ul style="list-style-type: none"> ビタミンC測定の実験方法について理解する。 作業1 ビタミンC測定用の試料を作る。 作業2 ビタミンC定用紙を使って、半定量を行う。実験結果をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書とワークシートを用いて、実験の方法について説明する。 実験試料①キウイ②じゃがいも(生)③じゃがいも(茹で、茹で汁)④パプリカ(生)⑤パプリカ(炒め)⑥レモン(生)を各班に分ける。 内容を理解して実験しているか確認しながら机間指導を行う。 測定試料ができあがったら、各班に配布するよう指示する。 班ごとにストップウォッチを使い、正確に時間を計るよう指示する。 判定を班で話し合いながら行うよう指示し、結果をワークシートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の内容を理解しようとしているか。 ア① [観察] 試料を作るため班員と協力して作業をしているか。 ア① ウ② [観察]

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
展開		<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果から分かったことをまとめる。 ・実験器具を片付ける。 ・班ごとに結果を黒板に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果から分かったことを班で3つ挙げ、プリントに記入するよう指示する。 ・実験器具を片付けさせる。 ・実験結果を班ごとに黒板に記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・測定結果をプリントにまとめているか。班ごとに話し合っているか。 ア①、イ、ウ② [観察・ワークシート]
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の実験から分かったことを班ごとに1つ発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パプリカやキウイがビタミンCの量が多いこと、酸っぱさとビタミンCの量はあまり関係ないこと、じゃがいもやパプリカは調理によってビタミンCが失われにくいことなど、ビタミンCの性質について確認する。 ・自己評価表とビタミンCの性質についてのワークシートを仕上げ、翌週提出するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験のねらいを理解しているか。 イ、エ [観察・ワークシート]

(6) 本時の振り返り

ア 本時は、ビタミンに関する学習の導入時期にあたり、身近な食品のビタミンCの含有量を測定し、食品のイメージからくるビタミンCの含有量と実験結果によるビタミンCの含有量の違いやビタミンCの調理特性について考えさせる授業を展開した。

実験結果を予想させることで、実験に対する興味・関心を高め、実験方法を正しく理解させ、適切な結果を導くようにさせた。生徒は、協力しながら慎重に実験に取り組んでいた。予想と実験結果から、ビタミンCについて分かったことを班で話し合いまとめさせ、ビタミンCの性質と調理法との関係について思考を深めさせるようにしたが、十分に班で話し合う時間を確保することができなかった。

イ 事後学習として、試料①から⑥のビタミンCの含有量について食品成分表の値を調べ、①実験結果が正しいものであったかどうか、②調理による損失はどれくらいかについて確認しながら、ビタミンCの性質についてまとめるよう課題を提示した。実験の感想から、生徒は、課題を通して改めて実験のねらいに気付いたり、自分の中の「どうして」という疑問点を挙げるなど、ビタミンCについて考えを深めていったことが分かった。ビタミンCについて考察させる課題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力を高め、学習した知識を活用しワークシートにまとめることで知識の定着を図った。

ウ 実験の自己評価として、「正しい方法で実験を行うことができたか」、「班員と協力できたか」、「安全に実施することができたか」の項目を設けた。生徒の記述から、安全に配慮し、おおむね適切に実験に取り組むことができたか確認することができた。また、本時の学習目標の達成度を把握するために、「様々な食品に含まれるビタミンCの含有量について理解できた」、「調理方法によってビタミンCの含有量が変化することが理解できた」の項目を設けた。おおむね生徒は理解できたと捉えていることが分かった。課題に対する記述や実験の感想を見ても、実験を通して調理方法によってビタミンCの含有量に違いがあることを理解していることが分かった。本時の評価規準を次に示す。

評価A：「十分満足できる」状況と判断できるもの

- ・実験結果を踏まえ、実験の考察を具体的にまとめ、指示された文章量を満たしているとともに、新たな課題を見だし取り組んでいる。

評価B：「おおむね満足できる」状況と判断できるもの

- ・実験結果を踏まえ、実験の考察を具体的にまとめ、指示された文章量を満たしている。

評価C：「努力を要する」状況と判断できるもの

- ・実験結果があいまいで、実験の考察について指示された文章量を満たしていない。

(7) 成果と課題

ア 実験結果を基に、事後学習として学習課題に取り組む効果について

下記は、本時終了後に提出されたワークシートに記載された生徒の感想である。

- ①パプリカのビタミンCが多いことにとっても驚きました。ビタミンCは熱に溶けやすいので茹でるとビタミンCが少なくなってしまうと思います。
- ②レモンが1番ビタミンCが多いと思っていたのに、パプリカが1番多かったことに驚いたなぜレモンが多いと思っていたのだろうか？
- ③ビタミンCは、食べ物の中に含まれている量が思ったよりも少なく驚きました。また、パプリカが1番多いこと、火を通すとビタミンの量が変わることに驚き、野菜などは、なるべく生で食べた方がいいのではないかと思います。
- ④ビタミンCは熱に不安定なのに、ジャガイモはビタミンCの損失が少なかった。これについて調べてみたい。

これまで実験を取り入れた授業では、教師の説明で授業をまとめ、実験後すぐに感想や考察を書かせてワークシートを回収していた。今回は、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するために、翌週の授業まで課題に取り組みまとめる時間を与えた。その結果、課題の取組内容や自己評価における生徒の感想を見ると、ビタミンCの調理特性について考えを深めワークシートにまとめてあり、その内容から思考力・判断力・表現力が高められたといえる。思考力・判断力・表現力を育成するためには、それらをもつ学習活動を展開するとともに、生徒の実態を見て考えをまとめ表現する時間も必要である。

イ 生徒の自己評価の活用について

今回は総合評価の欄を設け、自己評価を重視したが、授業の取組について、生徒の自己評価と教師の観察による評価が必ずしも一致しないという結果となった。今後、この相違についてどのように評価につなげるかが課題である。

本時の自己評価項目 A：とてもよくできた ～ D：さらに努力が必要

- 1 様々な食品に含まれるビタミンCの含有量について理解できた (A・B・C・D)
- 2 調理方法によってビタミンCの含有量が変化することが理解できた (A・B・C・D)
- 3 指示書を理解し、正確に試料を作ることができた (A・B・C・D)
- 4 判定量の方法を理解し、正しくテスター紙を扱えた (A・B・C・D)
- 5 安全に注意しながら作業ができた (A・B・C・D)
- 6 班員と協力しながら作業ができた (A・B・C・D)
- 7 実験結果は班員と話し合いながら導きだせた (A・B・C・D)

総合評価 (A・B・C・Dで記入)

実験の感想 (必ず3行書きましょう)

ウ 実験を行う際の授業展開について

本授業は、授業を1時間で完結させることに重きを置いたため、実験結果を基に話し合う時間が十分にとれなかった。ビタミンCの性質や調理特性について、グループ内で意見交換を深める時間が十分に確保できれば、生徒の思考をより一層深めることができたのではないかと考える。実験を行う際の生徒の様々な動きを想定しながら、授業計画を立案する必要がある。

実践事例 3

科目名	家庭基礎	学年	1 学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元名：食生活の管理と健康

イ 教科書：「高等学校改訂版家庭基礎 自分らしく生きる」 第一学習社

ウ 副教材：「ニュービジュアル家庭科 2012 資料+成分表」 実教出版

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 現代の食生活の特徴について理解を深めた上で、自身の食生活を振り返り、問題点を発見する。
- ・ 栄養素の働きと食品の特徴、食事摂取基準・食品群別摂取量の目安について理解を深め、実生活において、バランスのとれた食事を選択していく力を養う。
- ・ 食品衛生についての理解を深め、調理をする上での衛生管理を実践できるようにする。
- ・ 基礎的・基本的な調理技術を身に付ける。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	現代の食生活、栄養、食品の調理に関心を持ち、意欲的に学習や実習に取り組んでいる。	自分自身の食生活の問題点や改善策を見だし、その解決に向けて思考を深め適切に判断し、表現している。	健康的な食生活を営むために必要な基礎的・基本的な技能を身に付けている。	①現代の食生活の特徴、栄養、調理について理解し、食生活の向上・改善のために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（17時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で衛生的な食品の扱い方や調理の仕方について理解する。(1時間) ・五大栄養素の働きと食品の特徴について理解する。(3時間) ・調理実習を通して、食品の特徴や扱い方を理解すると共に基本的・基礎的な調理技術を身に付ける。(8時間) 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生的に食品を扱い、調理する方法を理解し、実践している。(観察) ・栄養素の働きと食品の特徴を理解し、興味・関心をもって学習に取り組んでいる。(観察) ・班で協力しながら積極的に実習に取り組んでいる。(観察) ・基礎的・基本的な調理技術を身に付けている。(観察) ・自分の考えを整理し、レポートにまとめている。(レポート)
第二次	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の食生活の特徴と課題を理解する。(1時間) 		●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の食生活の特徴を理解し、自分自身に関係する問題として捉えている。(ワークシート)

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第三次	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の食事摂取基準と四つの食品群別摂取量の目安について理解する。(1時間) 自分自身の食生活を振り返り、四つの食品群別摂取量の目安を活用しながら問題点と改善案を考える。他者の食生活を分析し、望ましい食生活について意見を交換する。(1時間) 【本時】 	●	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な食生活を送るために必要な栄養素の量について理解している。(ワークシート) 自分の食生活の課題を見だし、食品群別摂取量を活用しながら自分に合った食事を考え、判断している。(ワークシート) 他者との意見交換を通して、より健康的な食生活について考え、実践しようとしている。(ワークシート、態度)
第四次	<ul style="list-style-type: none"> 食品添加物の有用性と問題点について理解し、今後の食品の選択について考える。(2時間) 		●		●	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性や食品の表示、食品添加物について理解し、実生活における食品の選択について考えている。(ワークシート)

(5) 本時 (全 17 時間中の 15 時間目)

ア 本時の目標

- (ア) 食品群別摂取量を活用してバランスのとれた食事を考える力を身に付ける。
- (イ) スポーツ選手として望ましい食生活を日常的に意識する姿勢を身に付ける。
- (ウ) 他者との意見交換を通して、互いに学び合い自身の視野を広げる。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を振り返る。 本時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を確認する。 前時の学習内容を復習し、本時の学習内容を伝える。 	
展開	8分	<ul style="list-style-type: none"> 課題の食事記録を基に自身の食生活を振り返り、食生活の特徴や問題点、生活習慣との関係をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの質問①、②を記入させる。具体的に記入するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活を振り返り、問題点を見いだしているか。 イ [ワークシート]
	10分	<ul style="list-style-type: none"> 隣の人の食事記録を見て、良い点と改善点を見付け、お互いに栄養指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 隣の人と食事記録のワークシートを交換させ、食品群別摂取量を参考に互いに栄養指導を行わせる。 コメントを相手のワークシートに記入させる。他者から指導を受けることで、自分では気付かなかった自身の食生活の傾向に気付かせるように机間指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を生かし隣の人の食事記録を分析しているか。 ア [ワークシート]
	5分	<ul style="list-style-type: none"> 指名された生徒は相手の食生活の特徴、よい点、改善点を発表する。 隣の人の選択種目とその食生活の特徴を記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を指名し、隣の人の食生活について、その特徴、良い点、問題点を答えさせる。 隣の人の食生活の特徴を自分のワークシートに記録させる。 	
	10分	<ul style="list-style-type: none"> 同じ種目を選択しているもので集まり、他の種目と比較しながら話し合い、自分たちの選択種目における食生活の特徴に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ種目を選択しているもので集まり、互いの食事記録を見ながらその特徴を分析させる。 	

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・方法 (ア～エ)
展開		<ul style="list-style-type: none"> 選択している種目ごとに特徴を発表し、他の専攻についての情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 専攻で各1名ずつ指名し、分析結果を答えさせる。 	
まとめ	12分	<ul style="list-style-type: none"> 隣の人からの栄養指導や専攻ごとの特徴を踏まえて、自分の食生活について今後改善すべき点を考え、ワークシートに記入する。 食事記録を基に、献立の改善案を考え赤ペンで追記し、健康的でバランスのとれた食事について考える。 ワークシートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の授業全体を踏まえて、より健康的な食生活を送るための改善点をワークシートに記入させる。 より健康的な食事となるよう3日間の食事を見直させ、食事記録に改善案を記入させる。 ワークシートを提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活についての改善点を考えているか。 イ [ワークシート] 健康的な食生活に向けた、改善策を見いだせているか。 イ [ワークシート]

(6) 本時の振り返り

ア 本時の事前課題として、「3日間の食事記録」に取り組ませ、この食事記録を基に、自己の食生活の問題点を見だし、その改善策を図る授業を展開した。以下に食事記録を分析した際の生徒の記述を示す。生徒は、自己の食生活について改めて認識を深めていた。

- ・朝食での主食が少ない。
- ・毎日、同じようなものを食べていて変化がない。
- ・豆製品をあまり摂っていない。
- ・昼食は、ほとんど野菜を食べていない。
- ・第1群があまり摂れていない。

生徒は、自己の食生活の特徴や問題点、その改善策について、段階ごとに考えワークシートに記録しながら、思考力・判断力・表現力を高め、体調と食事との関わりについて理解を深めていった。

イ 自己の食事記録の分析だけではなく、他者の食事記録を見て、分析し、結果を相手に伝えるという学習活動を取り入れた結果、どの生徒も積極的に取り組んでおり、「自分で考えて食べるようにする。」など、食生活について改めて考えを深め、効果的な学習活動だった。また、同じ種目を選択している生徒同士での話し合いでは、自分たちに必

<p>①3日間の食事記録を見て、自分の食生活の特徴をまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1群の摂取量が少ない。 ・昼ご飯はほとんど野菜を食べていない。 ・主食は米が多い。 ・乳製品、豆製品が多い。 	<p>②3日間の食事記録を見て、自分の食生活の特徴をまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を少ししか摂らないと次の日疲れが残りやすい。 ・朝ご飯をしっかりと食べているから朝スッキリしている。 ・部活でかなり動いた後は、食べないと回復しないし、もたない。
<p>③隣の人のから栄養指導を受けましょう。</p> <p>◆よいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市販食品がなくて健康的 ・食事以外でバランス栄養食を摂取しているので、栄養バランスが保たれている。 ・1日の食生活のバランスがよい。 <p>◆直した方がよいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1群が少し少ないところ <p style="text-align: center;">より</p>	<p>④隣の人の食生活の特徴をメモしておきましょう。</p> <p style="text-align: center;">さん</p> <p style="text-align: center;">専攻系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスがとれていて、いろいろな種類の野菜がとれている。果物をもう少しとるとよいと思う。 ・料理1品にたくさんの素材が含まれている。
<p>⑤選択している種目ごとにグループになり、自分たちの食生活の特徴、他の種目と異なる部分などあったら書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動き続けなければいけないので、炭水化物をたくさん摂る。 ・持久力、筋力をつけるためにたんぱく質、脂質を摂る。 	
<p>⑥食事記録や栄養指導を通して、今後自分の食生活をどのように改善していこうと考えますか。具体的に書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーで常に動いていなくてはならないから、エネルギー源の炭水化物を多めに摂る。筋肉に変えるためにも果物も食べるようにする。 ・いろいろな食品をバランスよく摂取する。 	

ワークシートの記述内容（複数の生徒の記述）

要な身体能力について意見交換をするよい機会となり、スポーツ選手として望ましい食生活を送ろうとする意識を高めることができた。

ウ 本時は、単元の学習の後半に当たるため、これまでの学習内容を踏まえて自己の食生活を振り返り、取り組ませた。以下に本時の評価規準を示す。今回は、四つの食品群別摂取量の目安を参考に、3日間の食事記録がよりバランスの整った食事となるよう、食品や主菜、副菜を見直すよう指導し、食事記録に加筆させた。

評価A：「十分満足できる」状況と判断できるもの

・自己の食事記録を分析し、問題点を見だし、食生活の改善を図っている。スポーツ選手としてより健康的な食生活について具体的に考え記述している。

評価B：「おおむね満足できる」状況と判断できるもの

・自己の食事記録を分析し、問題点を見だし、食生活の改善を図っている。

評価C：「努力を要する」状況と判断できるもの

・自己の食事記録の分析を基に、問題点を見だし、食生活の改善が不十分である。

(7) 成果と課題

ア 生徒同士が互いの食生活について分析し評価し合う学習効果について

自分では気付かなかった食生活の傾向や問題点、その改善策を考えることで、自己の食生活の視野を広げることができた。他者の食生活の刺激を受け、自己の食生活の向上を目ざす意識が高まった。

イ 話し合いを充実させるための工夫について

事前課題の取組が十分にできていないと分析ができないため、事前の指導を丁寧にする必要がある。生徒の選択種目によっては、選択している人数が少ないことから様々な意見を引き出すために教師が生徒に発問するなど、生徒の思考を促す支援が必要である。

ウ 明確な評価規準及び評価項目の設定について

評価規準を基に、評価項目を設定しないと、生徒の考えや意見を恒常的に評価することが困難になるため、明確に設定しておく必要がある。また、生徒が「十分満足できる」という段階まで、生徒が学習に対する理解を深め思考力を高めるためには、教師が常に学習目標の達成を目指して教科指導していくことが重要である。

実践事例4

科目名	フードデザイン	学年	3 学年
-----	---------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元名：5章 料理様式とテーブルコーディネート

1 節 料理様式と献立 1 日本料理 2 西洋料理 3 中国料理

2 節 テーブルコーディネート 1 テーブルコーディネートの意義

2 テーブルコーディネートの要素

イ 教科書：「フードデザイン 新訂版」 実教出版

ウ 副教材：「最新 生活ハンドブック」 第一学習社

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 日本料理、西洋料理、中華料理など代表的な料理様式に応じた食卓構成と作法について理解する。
- ・ テーブルコーディネートの意義について理解し、心を豊かにし、おいしく食事を楽しむ食卓づくりができる。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	①日本料理、西洋料理、中華料理など代表的な料理様式について、料理の特徴や食卓構成、食卓作法に関心をもっている。 ②料理様式に応じたテーブルコーディネートの要素について、関心をもっている。 ③季節や行事、食事の目的などに応じて、食卓を演出しようとしている。	①食器・盛り付け・テーブルクロス・照明などについて、料理様式及び目的に応じて考え、工夫している。 ②新聞や書籍、インターネットによる資料収集などを通して、テーマに沿った献立作成やテーブルコーディネートについて、考えをまとめ、発表している。	①様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーや技能を身に付けている。 ②テーブルコーディネートの要素の一つであるナプキンのたたみ方、はし袋の作り方を身に付け実践することができる。 ③食事のテーマに応じた献立作成やテーブルコーディネートができる。	①日本料理、西洋料理、中華料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴や献立構成を理解している。 ②季節や行事、食事の目的などに応じて、食卓を演出することが、心豊かな食事につながっていくことを理解している。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（11時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一 次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本料理、西洋料理、中華料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴を知る。(3時間) ・ テーブルマナーに関するビデオを視聴し、基本的なテーブルマナーについてまとめる。(1時間) 	●		●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な料理様式について、料理の特徴や食卓構成、食卓作法に関心をもち、主体的に取り組んでいる。〔観察〕 ・ 様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーや技能を身に付けている。(観察)(ワークシート) ・ 代表的な料理様式について、それぞれの特徴や献立構成を理解している。〔ワークシート・ペーパーテスト〕
第二 次	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーブルコーディネートの意義を理解し、洋風・和風・中国風のコーディネートについて、それぞれの特徴を知る。(1時間) ・ ナプキンのたたみ方やはし袋の作り方を学び、テーブルコーディネートの要素について理解する。 ・ 行事食のテーブルコーディネートを考える。(1時間) 	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・ 料理様式に応じたテーブルコーディネートの要素について、関心をもっている。〔観察〕 ・ テーブルコーディネートの要素の一つであるナプキンのたたみ方、はし袋の作り方を身に付け実践することができる。〔観察〕 ・ 行事食に合ったテーブルコーディネートについて考え、工夫している。〔発表・ワークシート〕

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第三次	<ul style="list-style-type: none"> 学習したテーブルコーディネートのポイントをもとにして、イメージをふくらませる。インターネットや書籍等で情報を収集する。(2時間) 収集した情報を整理し、テーマに沿った献立やテーブルコーディネートを考える。 発表資料を作成する。(2時間) 	●		●		<ul style="list-style-type: none"> 季節や行事、食事の目的等に応じて、食卓を演出しようとしている。 食事のテーマに応じた献立作成やテーブルコーディネートができる。新聞や書籍、インターネットによる資料収集などを通して、テーマに沿った献立作成やテーブルコーディネートについて、考えをまとめている。(観察)(ワークシート)
第四次	<ul style="list-style-type: none"> 自分の設定したテーマに沿った献立作成やテーブルコーディネートについて発表する。 他者の発表を聞くことにより、食事を心豊かにおいしく食べるための様々な工夫を知り、食卓を演出することについて理解を深める。(1時間)【本時】 		●		●	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿った献立作成やテーブルコーディネートについて、考えをまとめ、発表している。 季節や行事、食事の目的などに応じて、食卓を演出することが、心豊かな食事につながっていくことを理解している。(観察)(ワークシート)

(5) 本時(全11時間中の11時間目)

ア 本時の目標

- (ア) 自分の考えたテーマに沿ったテーブルコーディネートについて発表する。
- (イ) 相互評価を通して他者との観点の違いを理解し、幅広い知識を身に付け学び合う。
- (ウ) 自己評価を通して学習内容を振り返り、習得した知識や技術を活用して今後の生活に生かす。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方について、テーマに沿った献立作成やテーブルコーディネートをする上で、どのような点を工夫したのか、プレゼンテーションソフトを活用して、分かりやすく伝えるように指導する。 ホワイトボードに本時の内容を明示しておく。 	
展開	15分	<ul style="list-style-type: none"> 評価表の準備をする。 発表の準備をする。 発表する。 1人につき発表5分 発表が終了したら評価する。 (評価表記入に1分。その間、次の発表者は準備する。) 	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価の仕方を説明し、ポイントをおさえて発表を聞くように指導する。 原稿や資料の確認をして、発表の準備をさせる。 発表者は全体に声が聞こえるように発表するよう指導する。 発表のために準備してきたもの(プレゼンテーション資料など)を効果的に活用できるように支援する。 	イ② (発表)

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
展開	15分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の発表を振り返り、自己評価表に記入する。 教師の講評を聞く。 授業者のテーブルコーディネーター案を聞く。 感想や意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価表を配布し、項目に沿って自分の発表を振り返らせる。 それぞれの発表内容について講評を行う。 どのような点が工夫されていたかをポイントにして、発表を聞くように指導する。 	エ② (ワークシート)
まとめ	15分	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価の内容を交換し、自己の振り返りの材料にする。 自己評価表及びテーブルコーディネーターのワークシートを完成させて、提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価の内容を確認することで、自分では気が付かない良い点や改善点を把握させ、自己評価へつなげるように指導する。 この単元で学習した内容を生かした発表ができたかどうか、自己評価表を活用して確認させる。 次回の授業の予告をする。 	エ② (ワークシート)

(6) 本時の振り返り

ア 生徒は、自身で設定したテーマを基に献立を立案し、おいしく食事を楽しむための食卓づくりについてよく考え、取り組んでいた。

完成したテーブルコーディネーターについて、プレゼンテーションソフトを活用して発表させた。発表前に相互評価表を配布し、発表を聞く上での評価の観点を事前に知らせることで、どのような点にポイントを絞って発表すればよいのかを意識させることができ、そのことで発表もスムーズにできていた。発表に慣れていない生徒でも、発表するポイントについて事前に示し説明することで、自分が取り組んだ課題について整理し、聞き手にわかりやすく発表することができた。この間、発表学習を授業に取り入れる機会が少なかったため、発表学習まで取り組むことで、生徒の表現力を高めることができたと考えられる。

イ 本時の評価は、献立作成及びテーブルコーディネーターの取り組み及び発表に対する自己評価を行うだけではなく、生徒同士で相互評価を行い、評価内容を生徒間で交換しフィードバックさせた。教師は、全体や個々の発表でよかったところ、改善するとしたらどのような改善の仕方があるのかなど、生徒が今後の食生活に生かせる視点で講評した。

生徒は、様々な人の意見や評価を受けることで、自分の考えたテーブルコーディネーターの内容や発表の仕方について振り返ることができた。自己評価の感想には、他者からの評価や教員からの講評を受けて、自分の発表に足りなかったところを改善しようとする姿勢が見られた。他者から様々な評価を受けることは、聞き手にしっかりと伝わる発表の方法について考える機会となった。以下に生徒の感想と本時の評価規準を示す。

生徒の感想

- ・大体5分ぐらいで発表できた。緊張した。講評にもあったように、メニュー作りに母の誕生日に比重を置きすぎて、食べ盛りの弟には物足りなさを感じさせるので、もう少しボリュームのことも考えたメニューにすればよかった。
- ・上手くまとめられなかった。献立の説明をもっとすべきだった。デザートや和菓子のデザートにもこだわっていたので、説明すべきだった。人前で発表することが少なかったため、とても緊張し、自分が何を話しているのかよくわからなくなっていた。プレゼンテーションソフトは上手く使えなかったが、内容はすごく考えたので、自分でもったいないなと思った。次に機会があれば、テーブルコーディネーターをしてもらいたい。

評価規準

評価A：「十分満足できる」状況と判断できるもの

- ・テーマに沿ったテーブルコーディネート及び献立作成について、考えをまとめ、発表している。また、季節や行事、食事の目的などに応じて、食卓を演出することが、心豊かな食事につながっていくことを理解している。

評価B：「おおむね満足できる」状況と判断できるもの

- ・テーマに沿ったテーブルコーディネート及び献立作成について、考えをまとめ、発表している。

評価C：「努力を要する」状況と判断できるもの

- ・テーマの設定が曖昧で、テーブルコーディネートの要素を取り入れることができていない。

(7) 成果と課題

ア 発表学習における相互評価の効果について

これまで発表学習をあまり取り入れてこなかったため、生徒は、自分の考えを表現しきれず、発表に関する自己評価も「普通」と評価する生徒が多かった。具体的に説明すべきだったなど、発表に対する課題について認識することができた。

発表の内容については、相互評価による他者からの意見や感想、教師の講評を通して、課題の取組として不足していた点、より良く改善できる点について理解し、今後の家庭生活において生かそうとする姿勢が見られるなど、相互評価から学ぶことができた。

イ 生徒の学習状況を高めていく評価規準の設定について

評価規準の設定については、より明確にしていくことが必要だと感じた。今回は自分で設定したテーマに沿ってテーブルコーディネートや献立作成ができているか、という点に重点を置いて指導し、評価規準を設定した。したがって、指導通りの発表内容となっていれば「おおむね満足できる」と評価することができる。「十分満足できる」と評価できる内容について、生徒に分かりやすく基準を示しておけば、生徒も試行錯誤を繰り返し発表学習まで取り組むことで達成感を感じるなど、より良い取組が期待できたのではないかと感じた。実際に生徒の自己評価を見てみると、声の大きさや話す速度、発表時間、資料の分かりやすさといった項目に対しては「普通」と評価する生徒が多かったのに対して、献立作成やテーブルコーディネートができたかという項目に対しては「よくできている」と評価していた。この結果から、本時の目標であるテーマに沿ったテーブルコーディネート及び献立作成は生徒自身も「よくできている」と評価していることが分かった。

VI 研究の成果

1 検証授業による成果

実践事例1は、単元の学習の導入時期に、生徒の自己評価を生かすためのワークシートの工夫について検証授業を行った。生徒の自己評価の記述内容から、食生活の学習の導入時期ではあったが、グループで話し合い、発表する学習活動を通して、将来どのような食生活を送っていくかという問いに対しても、自己の食生活の現状を改善する方法について考えていた。生徒は、グループ学習や発表学習を通して、食生活について興味・関心を高め、考えを深めていったといえる。また、自己評価の設問内容を授業への取り組みや生徒が印象に残った言葉を記述する内容としたことで、生徒の学習状況を把握することができ、今後の授業計

画を見直すとともに授業改善に生かすことができた。

実践事例2は、単元の学習に実験を取り入れ、実験結果から思考を深め学習意欲を高める事後学習の工夫について検証授業を行った。実験結果から分かったことを班でまとめさせ、事後学習としてビタミンCの性質についてまとめる課題に取り組みさせた。実験の感想をみると、疑問点を見いだし解決しようとする内容のものもあり、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるためには、生徒の実態に応じて、生徒が考えを深め、表現するための時間を設けることも重要であることが分かった。

実践事例3は、単元のまとめに、食生活の分析を行い、習得した知識の定着を図る学習活動の工夫について検証授業を行った。食事記録を基に、お互いの食生活について分析し評価し合う学習活動を通して、生徒は、習得した知識を生かしながら積極的に学習活動に取り組むことができた。生徒が相手の食生活について分析し、評価できるようにするために、食事記録は、授業で学習した「食品群別摂取量」を基に摂取した食品を記録させた。また、保健体育科の特色を生かし、「活動の記録」の欄を設け記録させた。「活動の記録」には、①体調、②睡眠時間、③運動量について記入させ、食事と生活活動、体調について振り返り考えるようにさせた。「活動の記録」を活用することで、食事記録の分析もしやすくなり、意見交換も活発になったことから、事前課題において分析に必要な項目を設け課題に取り組ませることが重要であることがわかった。

実践事例4は、単元のまとめに、発表学習を行い、相互評価を基に自己の課題を見いだし学習活動の工夫について検証授業を行った。生徒は、自ら設定したテーマに基づいて課題に取り組み発表する中で、相手に伝えるための発表の仕方について考え発表したが、課題も多く、機会を捉えて発表学習を重ねていく必要もあると感じた。相互評価については、生徒は評価結果を真剣に受け止め、他者の意見や感想から、改善すべき点を見いだし家庭における食生活に生かしていこうとする姿勢が見られた。自己評価や相互評価を行うことは、様々な考えや見方があることを知るとともに自分では気付かなかった点に気付くなど、生徒の思考の幅を広げ、その後の学習活動にも効果的に活用できるといえる。

2 学習内容における自己評価及び相互評価における成果

教師にとっても、自己評価や相互評価は、生徒の授業に対する理解度を確認することができ、教師からの一方的な授業の進め方を見直し、その後の授業展開を考える良い材料となることが確認できた。教師の説明していることが生徒に伝わっていない場合や理解があいまいな場合もあるので、「授業で学んだこと」「印象に残った言葉」などを記述させる自己評価を行うことで、教師は、説明の仕方を工夫するなど、授業を振り返り改善を図ることができた。

自己評価は、生徒の授業の取組や理解度を把握するために、学習内容に応じて、評価の場面を設定し活用することで、教師の評価に生かすことができる。相互評価については、評価項目をはじめ評価の仕方について、生徒に説明し理解させた上で取り組ませる必要がある。

3 学習活動に応じたワークシートの設問の工夫による成果

グループでの話し合いや発表学習などの学習活動は、他者の意見を聞いたり、自己の考えをまとめたりすることで、思考を深めていくことが分かり、思考力・判断力・表現力を高める上で、効果的な学習活動であるといえる。より効果を上げるためには、発表学習の回数を重ねること、教師が生徒の実態に合わせて話し合いの方法や発表の仕方を的確に指示するこ

とが欠かせないことも分かった。

グループ学習や発表学習に合わせてワークシートの設問を具体的に設定するなど工夫し、学習活動に応じて記述させていくことも、教師が生徒の思考の変化を読み取ったり、生徒自身が考えをまとめる際に欠かせない。ワークシートに何を記述するのか、生徒が記述できるように教師が支援することも重要である。

検証授業後の評価結果から、評価規準を適正に設定し、評価する際には、①学習目標を明確に設定すること、②学習活動に応じた評価方法を検討すること、③評価時期を適切に設定すること、④評価結果を生徒にフィードバックすることが重要であることが分かった。

Ⅶ 今後の課題

1 学習目標に応じた自己評価、相互評価の実施

自己評価はこれまでも取り入れて実践していることが多かったが、生徒の記述内容をみると、問いに対して過大評価をしてしまう場合もあり、学習目標に応じてどのような自己評価を求めているのか明確にすることが大切である。また、教師は、生徒の実態に応じて自己評価の仕方について説明する必要がある。真面目で謙虚な生徒ほど自己肯定感が低く教師の観察による評価と必ずしも一致しない場合も見られた。自己評価の項目が適切であったか、自己評価させるときの授業者の説明が適切であったかどうか、教師は、十分に振り返りながら自己評価を生かす必要がある。相互評価においても生徒に理解をさせた上で実施していく。

2 生徒の実態を踏まえた思考力・判断力・表現力を高める学習活動の取組

思考力・判断力・表現力を高めるための学習活動として、グループで話し合ったり発表したりすることは、生徒によっては、初めはうまくいかないことも多い。生徒の発表の仕方や発表内容、グループの話し合いの状況、提出物の記入内容を踏まえて、教師が適切に支援し、繰り返し取り組むことが必要である。また、授業の中で、学習内容を定着させるために、自己の考えを文章でまとめることを習慣化させたりすることも繰り返し取り組む必要がある。

3 学習指導に応じた評価計画の立案

今回は評価方法の工夫として、様々な場面で 評価の機会を捉えてきた。ワークシートの中から、優れた内容のものを紹介し、どのような点がよかったのかを伝えたり、自己評価に対してコメントを入れて返却したりすることで、生徒に評価結果をフィードバックもしてきた。指導計画を立てる段階で、どのような場面でどのような評価方法を取り入れ、評価するのかを明確にすることが重要である。特に、思考力・判断力・表現力を高めるための評価については、個々の生徒に応じて教師がその評価結果をフィードバックすることで、さらに生徒の思考力・判断力・表現力を高めていくことも重要である。

授業計画を立案する上で、どのような場面でどのような評価方法を取り入れていくか、またその評価方法が適切であるかどうか、十分に検討し判断する必要がある。教師は、生徒に明確な学習目標を示すとともに、生徒の学習活動の様子から授業計画を見直し、生徒が学習目標に達成できるよう、授業を展開しなければならない。したがって、授業計画を立てる際、学習目標に基づき、学習活動に応じた評価方法と評価の規準、評価活動を行う場面を明確にすることが重要である。

平成24年度 教育研究員名簿

高等学校・家庭

学校名	課程	職名	氏名
都立駒場高等学校	全日制	教諭	加藤 慶子
都立農芸高等学校	全日制	主任教諭	○宮川 麻衣子
都立東村山高等学校	全日制	主任教諭	◎永井 愛
都立八王子東高等学校	全日制	教諭	山本 泰子

◎ 世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 金澤 正美

平成24年度
教育研究員研究報告書

高等学校・家庭

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6882
印刷会社 株式会社 イマイシ